

ミニスト」を批判する概念——がすべてではありません。イスラエルが、報復として明らかに過剰な軍事行動を起こしている中で、ハマスの性暴力を糾弾し、「奴らはレイブ魔」とレッテル貼りすることが、パレスチナ市民を広範に巻き込む軍事行動を正当化するリスクを十分に自覚し、慎重な姿勢を取ってきたフェミニストもいます。ただ、そうした人々の声が封殺される傾向にあることも事実です。

カナダにあるアルバータ大学の性暴力センターのディレクター、サマンサ・ピアソンが、ある書簡への署名をめぐって解雇されました。「パレスチナを支持する…政治指導者たちにジェノサイドへの加担をやめることを求める」と題されたその書簡は、カナダの政治指導者たちに対し、パレスチナ人と連帯し、「イスラエルによる大量虐殺への加担に終止符を打つ」ことを呼びかけるものでした。とりわけ問題視されたのが、この書簡に「パレスチナ人が性暴力の罪を犯したという、検証されていないことへの非難が繰り返されている」という言及があったことです。ピアソンはイスラエル人女性へのレイブを否定するハマスのプロバガンダを鵜呑みにしている、性暴力問題に取り組むセンターの長でありながら、ハマスによるレイブや性暴力に疑いをはさむとは何事か、という批判が殺到し、解雇に至りました。

しかしピアソンが署名した書簡は、ハマスによるレイブを否定するものではなく、そのような主張は検証されたものでなければならぬ、と言っているにすぎません。何より、この書簡が停戦を求めるものであったことも考える必要があります。独立した検証を経ていないのに、ハマスによる組織的なレイブがあったと断定し、「ハマスはレイブ魔」というレッテルを拡散することは、イスラエルの軍事行動を後押しすることになり、イスラエルが「レイブ魔」「テロリスト」とは交渉できないと、停戦をあくまで拒否する口実にもなる。だからまず、事実関係をきちんと検証すべきであり、また、たとえ性暴力の事実が確認されたとしても、ハマスの非道さを理由に、パレスチナ市民への不当な攻撃が正当化されてはならない。書簡は決して一方的にパレスチナ側に立ったものではなく、ハマスのテロを批判し、人質解放を求めるのであれば、イスラエルがパレスチナに行なってきた数々の「テロ」行為——パレスチナ人の不当な拘束、ガザに強いてきた軍事封鎖、ヨルダン川西岸の違法な入植——も等しく批判し、その終結が主張されなければならないと述べるもので、問題の本質に触れたフェアなものでした。

なお、ハマスによる人質拘束は批判されるべきですが、AP通信によればイスラエルの刑務所には現在7000人超のパレスチナ人が収監され、「治安」の名目で、起訴も裁判もなく、無期限で拘束される「行政拘禁」の人も10000〜20000人いると見られています。石を投げただけで投獄された子どももいます。1967年にガザ地区とヨルダン川西岸でイスラエルによる占領が始まりましたが、以降、推計75万人以上が拘束され、ほぼ全家庭で身内に被拘束者、あるいはその経験者がいる状態だと報じられています。

「ミニスト」を批判する概念——がすべてではありません。イスラエルが、報復として明らかに過剰な軍事行動を起こしている中で、ハマスの性暴力を糾弾し、「奴らはレイブ魔」とレッテル貼りすることが、パレスチナ市民を広範に巻き込む軍事行動を正当化するリスクを十分に自覚し、慎重な姿勢を取ってきたフェミニストもいます。ただ、そうした人々の声が封殺される傾向にあることも事実です。

カナダにあるアルバート大学の性暴力センターのディレクター、サマンサ・ピアソンが、ある書簡への署名をめぐって解雇されました。「パレスチナを支持する…政治指導者たちにジェノサイドへの加担をやめることを求める」と題されたその書簡は、カナダの政治指導者たちに対し、パレスチナ人と連帯し、「イスラエルによる大量虐殺への加担に終止符を打つ」ことを呼びかけるものでした。とりわけ問題視されたのが、この書簡に「パレスチナ人が性暴力の罪を犯したという、検証されていないことへの非難が繰り返されている」という言及があったことです。ピアソンはイスラエル人女性へのレイブを否定するハマスのプロパガンダを鵜呑みにしている、性暴力問題に取り組むセンターの長でありながら、ハマスによるレイブや性暴力に疑いをはさむとは何事か、という批判が殺到し、解雇に至りました。

しかしピアソンが署名した書簡は、ハマスによるレイブを否定するものではなく、そのような主張は検証されたものでなければならぬ、と言っているにすぎません。何より、この書簡が停戦を求めるものであったことも考える必要があります。独立した検証を経ないのに、ハマスによる組織的なレイブがあったと断定し、「ハマスはレイブ魔」というレッテルを拡散することは、イスラエルの軍事行動を後押しすることになり、イスラエルが「レイブ魔」「テロリスト」とは交渉できないと、停戦をあくまで拒否する口実にもなる。だからまず、事実関係をきちんと検証すべきであり、また、たとえ性暴力の事実が確認されたとしても、ハマスの非道さを理由に、パレスチナ市民への不当な攻撃が正当化されてはならない。書簡は決して一方的にパレスチナ側に立ったものではなく、ハマスのテロを批判し、人質解放を求めるのであれば、イスラエルがパレスチナに行なってきた数々の「テロ」行為——パレスチナ人の不当な拘束、ガザに強いてきた軍事封鎖、ヨルダン川西岸の違法な入植——も等しく批判し、その終結が主張されなければならないと述べるもので、問題の本質に触れたフェアなものでした。

なお、ハマスによる人質拘束は批判されるべきですが、AP通信によればイスラエルの刑務所には現在7000人超のパレスチナ人が収監され、「治安」の名目で、起訴も裁判もなく、無期限で拘束される「行政拘禁」の人も10000〜20000人いると見られています。石を投げただけで投獄された子どももいます。1967年にガザ地区とヨルダン川西岸でイスラエルによる占領が始まりましたが、以降、推計75万人以上が拘束され、ほぼ全家庭で身内に被拘束者、あるいはその経験者がいる状態だと報じられています。

自壊する欧米

ガザ危機が問うダブルスタンダード

内藤正典

Naito Masanori

三牧聖子

Mimaki Seiko



集英社
新書

1211

A